

2024年3月期第1四半期 決算説明会・主な質疑応答

決算説明会での主な質疑応答を掲載しています。

開催日時：2023年8月8日（火）

<ご留意事項>

「主な質疑応答」は、説明会での質疑をそのまま書き起こしたのではなく、ご参加いただけなかった方々向けに、当社の判断で簡潔にまとめたものです。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

全社

Q： 1Q実績は、社内計画に対してどういう進捗であったか？

A： 1Qの計画値は開示しておりませんが、全体として、営業利益は40億円程度下振れしています。映像事業とヘルスケア事業は計画を上回りましたが、精機事業が想定以上に低調なスタートとなりました。また、コンポーネント事業もEUV関連コンポーネントをはじめ一部光学製品・コンポーネントの引き渡しが後倒しになり計画を下回る結果となりました。

映像事業

Q： 映像事業について上方修正されたが、販売が好調なZ8などを考慮するとさらなる上方修正の余地はあると考えているか？

A： 当社の商品についてはお客さまから高評価を頂きシェアは着実に回復基調にあります。特に中国では、景気減速の懸念は承知していますが、デジタルカメラ市場は好調に推移しています。スマートフォンの機能に飽き足らない若年層を中心にZ9やZ8といった高級機を購入頂いており、デジタルカメラとスマートフォンが共存する時代がやってきつつあるという手ごたえを感じています。加えて、アフターコロナでの旅行需要の高まりによるデジタルカメラの需要増にも期待しています。一方で、市場全体の需給正常化により下期は競争環境がより厳しくなると想定し、販促費用を厚めに計画しています。

精機事業

Q： 中国において競合他社は半導体露光装置の販売が好調のようだが、ニコンの半導体露光装置の引き合いについて教えて欲しい

A： 中国では半導体メーカーの投資活動が活発になっていると認識しています。中国市場では競合企業が先行していますが、顧客の多様化・基盤拡大の観点より、数年前から営業活動を強化してきました

た。現状少しずつ顧客を獲得しつつある状況です。

新製品の ArF 液浸露光装置「NSR-S625E」は中国へ輸出可能と考えており、引き合いの多い ArF Dry 露光装置と合わせて将来的な中国市場でのビジネス拡大に期待しています。

Q： 主要顧客からのサービス収入の減少、露光装置販売の後倒しにより、足元は厳しい状況であるが、来期以降の販売見通しについて教えて欲しい。

A： 個別顧客の投資動向はコメントを差し控えますが、半導体市況の悪化から、顧客の設備投資動向の不透明感が増しており、サービス収入の減少や露光装置引き渡しの後倒しなど、今期及び来期以降の当社のビジネスに悪影響が及びリスクはあります。一方で、CHIPS 法など米国政府の支援や主要顧客のファウンドリービジネスへの本格進出、複数の新規工場の話などポジティブな要素もあり、将来に向けた期待もあります。

ヘルスケア事業

Q： ヘルスケア事業では、足元の市況は期初計画段階に比べてどうなっているのか？北米では病院の財政状況が悪く、設備投資を抑制しているという話も聞かれますが、業績への影響はあるか？

A： ライフサイエンス、アイケアともに、一部の部品調達の懸念は残り、また、各国インフレに伴う金利負担の増加による受注見合わせやリース販売減速などの懸念もあります。しかし、為替の実勢レートが会社前提を上回り、かつ部材調達が順調に進めば上振れも期待できます。

コンポーネント事業

Q： 今期の業績が下振れする可能性はあるのか。また、来期の見通しについて教えて欲しい。

A： 当社が提供する EUV 関連コンポーネントは、EUV マスク検査装置の主要なコンポーネントを提供しているビジネスであり、最終ユーザーである半導体メーカーの EUV 露光装置の導入タイミング、当社顧客の在庫状況や検査装置の据付タイミングなど、複数の変数から当社の販売時期が左右されます。EUV 関連コンポーネント以外の光学部品・コンポーネントについても、半導体工場の稼働率がグローバルで低下しているため低調な状況です。EUV 関連コンポーネントを含めたコンポーネント事業はこれまで右肩上がりに成長し、中長期的にも引き続き成長事業としての期待はありますが、短期的には踊り場を迎える可能性があります。

来期の見通しは、不透明感が高く、現時点では申し上げにくい状況です。

以上